

教育長だより

No. 32

2024年3月22日

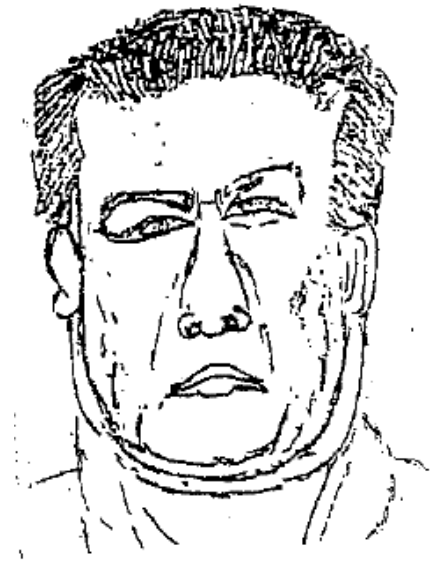
教育長 退任あいさつ

私は、生まれ育った野洲市で、7年間にわたり、教育長として、教育行政を担当させていただきました。ひとえに、教職員のみなさんをはじめ、市民のみなさんのご支援があってこそでございます。ここに、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

私は、旧中主町に生まれ、大学から大阪へ出ました。大阪に行ったのは、ずっと前にもお話ししましたように、父母の喧嘩が絶えなかったからです。そこから逃れるためでした。

そして、大学卒業後も、そのまま大阪の中学校の教員となりました。赴任したのが、大阪市の南隣、松原市立松原第三中学校です。

これが、当時の校長先生です。(当時のやんちゃな生徒が描きました) ご覧のとおり、かなりの「やり手」です。私が赴任する数年前までは、大阪府の南東部＝南河内一帯の中学校をすべて抑えるような「やんちゃな子」がいる『荒れた中学校』でした。それを、同和教育・人権教育を柱に改革し、『普通の中学校』に、そして、『大阪一の中学校』に変えた校長です。私が赴任したころは、すごく安定した、全国から視察が絶えない学校でした。私はここで15年間育ててもらいました。この校長先生の口癖は、「**お医者さんは、病気を治してなんぼ。学校の先生は、でげやん子ようしてなんぼや。**」です。お医者さんは病気を治療して評価されます。学校の先生は、しんどい子を支援して評価されるんだということを、河内弁で言われていました。



そして、もう一つ、「**教育は、ハートや。**」という言葉です。私は、この学校で一番大切にしてきた「**親をどう見るか**」を学びました。中学生は、思春期真っただ中です。反発などから、荒れたり、しんどさに押しつぶされそうな生徒に、「親の生い立ち」や「生活」をしっかり見つめさせることに力を入れました。父母が、社会の中で必死に生きている姿、あるいは、そのしんどさから、お酒やギャンブルに流れている現状。これを、科学的にとらえることで、「そんな風にしか生きてこられなかったのは、お父さんやお母さんのせいではなく、そうせざるを得なかった、あるいは、そうした社会で必死に生きている姿を、生徒に見つめさせる取り組みです。そして、そこが見えると、生徒同士が仲間として、どんどんつながっていきました。

生徒に「**親の生きざま**」を見つめさせる中で、担任である私自身も考えました。「**私の親はどうなのか?**」と。私が幼い頃は、農業だけで十分生活が成り立っていました。しかし、

やがて耕運機がはいり、それがトラクターへ、また、稲刈り機がコンバインへと、次々と大きな機械が必要な農業となりました。そして、そのローンのために、両親とも外へ働きに出ました。帰宅後は、明るいうちに田んぼへ。そんな生活を送らざるをえない中で、お金のことで喧嘩が絶えなかったんだということに気づきました。私は、教員になってやっと、時代の波に翻弄(ほんろう)されながらも、一生懸命生きている親から逃げてきた自分の姿が見えたのです。そんな自分が情けなくて、生徒の前で、涙が止まりませんでした。と、同時に、親をいとおしく、そして、「誇りに」思えるようになりました。それで、生まれ育った滋賀県へ帰ってきたのです。

私は、近江八幡市と野洲市で勤めました。学校では、いわゆる「問題行動」や「低学力」、あるいは「不登校」など、特に課題の重い子どもたちとかかわってきました。「サラ金」に追われて、突然、着のみ着のまま転校してきた生徒や、虐待、あるいは、貧困の中で、必死にもがいている子どもたちがいました。こうした子を中心に、仲間づくりに励みました。

こうして、「**教育は、ハートや。**」というのが、私の教育の原点となっています。「ハート」、今日の高度情報化社会にあって、いまこそ「人のぬくもり」が感じられる教育が求められていると考えています。

こんな私の「思い」を引き継いでくれるのが、次の北脇教育長です。彼とは、中学校や教育委員会で、共に仕事をやって来ました。私の大好きな言葉、『人権のまち 野洲』を引継ぎ、さらに発展させる教育行政を進めてくれると信じています。

話は変わりますが、先日卒業した中学3年生は、「二人に一人が107歳まで生きる。」とされています。『人生100年時代』、市民のみなさんが生涯にわたって豊かに暮らすためには、健康で心に潤いやゆとりが大切です。そして、その心の糧となるのが、芸術や文化、歴史、自然などに触れることだと思います。本市にはこうした先人が残してくれたさまざまな財産が数多くあります。私は、こうした野洲の豊かな資源を活用した生涯学習を一層進め、市長の言われる『笑顔あふれる にじいろ都市 野洲』のまちづくりにつなげたいと考え、今日までやってきました。今後は、これを次の北脇教育長にしっかり託したいと思います。

4月からの新教育長の下での教育行政に、教職員のみなさん、市民のみなさんのご支援・ご指導を、お願い申し上げて、退任にあたりましてのごあいさつといたします。

7年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。